

# アルジェリア・ドキュメンタリー映画祭

## マレク・ベンスマイル監督特集

2009年12月19日(土)・20日(日) 上智大学四ツ谷キャンパス

映画は日本語または英語字幕つき。交流会は逐次通訳あり。入場無料



UNLIMITED AND CIRTA FILMS PRESENT

### China is still far

A film by Malek Bensmail

20日 13:30 ~

最新作『中国はいまだ遠し』上映 (英語字幕つき)

+ ベンスマイル監督との交流会 (通訳つき)

映画概要：イスラームの預言者ムハンマドは言った。「知識を求めよ。たとえ中国にあらうとも」。しかし、アルジェリアの子供たちにとって、中国はなんと遠いことだろう。

アルジェリア東部の山深い小さな村、ガシーラ。この土地で、1954年11月1日、フランス人の小学校教師夫婦が襲撃された。教科書はこれを、栄光のアルジェリア独立戦争の口火を切った軍事作戦と教える。

カメラが村に分け入り、人々の暮らしを、小学校の授業風景を撮る。村人たちは、11月1日の出来事について語り始める。公認史観の神話は解体されてゆき、教えられる歴史と生きられる歴史の齟齬が、浮き彫りになっていく。

### 全体プログラム

<b>12月19日(土) 会場:2号館5階 509教室</b>
10:00-11:30 カイナ・シネマ最新作品集 (日本語字幕)
12:30-13:00 プリーフィング (『ブーディヤーフ』解説)
13:00-13:20 『デモクラシア』 (日本語字幕)
13:30-14:30 『ブーディヤーフ 暗殺された希望』 (日本語字幕)
<b>12月20日(日) 会場:2号館5階 508教室</b>
10:00-10:10 開会挨拶
10:10-12:00 『発狂』 (英語字幕)
13:00-13:30 プリーフィング (『中国はいまだ遠し』解説)
13:30-15:30 『中国はいまだ遠し』 (英語字幕)
15:45-17:15 ベンスマイル監督との交流会 (通訳つき)

### マレク・ベンスマイル

1966年コンスタンチヌ (アルジェリア) 生まれ。パリ映画学院卒業後、アルジェリアを舞台としたドキュメンタリー作品を撮り続ける。代表作は、90年代のイスラーム主義とテロの時代を扱った『ALGERIE(S)』(ティエリー・ルクレールとの共作、2002)、精神病院を取材した『発狂』(2004)など。



問い合わせ：上智大学アジア文化研究所  
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1  
TEL (03)3238-3697 FAX (03)3238-3690  
Mail i-asianc@hoffman.cc.sophia.ac.jp

アルジェリア・ドキュメンタリー映画祭 マレク・ベンスマイル監督特集  
2009年12月19日(土)・20日(日)@上智大学四ッ谷キャンパス

プログラム

2009年12月19日(土)	場所:2号館5階 509 教室
10:00-11:30	カイナ・シネマ最新作品集(A) <日本語字幕>
12:30-13:00	ブリーフィング: 渡邊祥子(アルジェリア近代史)による『ブーディヤーフ 暗殺された希望』解説
13:00-13:20	マレク・ベンスマイル特集①『デモクラシア』(B) <日本語字幕>
13:30-14:30	マレク・ベンスマイル特集②『ブーディヤーフ 暗殺された希望』(C) <日本語字幕>
2009年12月20日(日)	場所:2号館5階 508教室
10:00-10:10	開会挨拶 私市正年(アルジェリア史. アジア文化研究所所長)
10:10-12:00	マレク・ベンスマイル特集③『発狂』(D) <英語字幕>
13:00-13:30	ブリーフィング: 鶴戸聡(マグリブ文学)による『中国はいまだ遠し』解説
13:30-15:30	マレク・ベンスマイル特集④『中国はいまだ遠し』(E) <英語字幕>
15:45-17:15	マレク・ベンスマイル監督との討論会(司会・鶴戸聡)

※映画には日本語または英語字幕がつきます。20日の討論会は逐次通訳つき。  
※入場無料。事前予約不要。

作品解説 ( B-Eはマレク・ベンスマイル特集 )

<p><b>A.カイナ・シネマ最新作品集</b></p> <p>新世代の映像作家育成のために活動しているフランスのアソシエーション「カイナ・シネマ」が2008年にアルジェリアで行ったワークショップの参加者4人の作品を紹介。若者の目が見た、アルジェリアの今。(日本語字幕作成: 鶴戸聡)</p> <p>『ハルギン・ハルギン』 メリエム・アシュール=ブーアッカーズ/2008年/24分 ...欧州への不法入国。若者たちは、なぜ脱出したがるのか？</p>	<p><b>B.『デモクラシア』Démokratia</b> 2001年/フランス/17分. フィクション</p> <p>とある寒い国の軍事政権。独裁者と彼を取り巻く軍人たち。権力をめぐる謀略が錯綜する中で、独裁者は閣僚たちに銃を突きつけられ、最期の瞬間を迎える...</p> <p>ロシアのレンフィルム・スタジオへの留学歴を持つベンスマイル監督。ロシア・アヴァンギャルドを髣髴とさせる本作の舞台は、北アフリカか、ユーラシアの北端か。どこにでもある政治的寓話。</p>	<p><b>D.『発狂』Aliénations</b> 2004年/アルジェリア=フランス/105分. ドキュメンタリー</p> <p>コンスタンチヌ郊外の精神病院。そこで生活する人々は、狂気と正常、逸脱と治癒を行き来しつつ、他の患者、医者、家族、社会と向き合う。カメラが患者たちの日常を淡々と写し取る中で、患者たちの悩みや怒り、閉塞と渴望が、彼ら自身によって語られる。</p> <p>患者たちの個人的なドラマに、貧困、失業、家庭崩壊、暴力、女性たちの閉塞状態といった、アルジェリア社会の抱える問題が影を落とす。精神の病は、個人の肉体に憑依した社会の病でもある。</p>
<p>『ヤラネグ』 アミン・アイト=ワレット/2008年/19分 ...ベルベル文化運動と、郊外の若者たちの活動を描く。</p> <p>『ここはコンスタンチヌ』 パヒーヤ・ベンシェイフ=エル=フェグーン/2008年/30分 ...古都をめぐる記憶・歴史・アイデンティティ。</p> <p>『ファーテフ』 アブデンヌール・ジャーニ/2008年/13分 ...歌と詩を書くことによって抵抗する日常。</p>	<p><b>C.『ブーディヤーフ、暗殺された希望』Boudiaf, un espoir assassiné</b> 1999年/アルジェリア=フランス/60分. ドキュメンタリー</p> <p>1992年1月、政治的危機のさなかにあったアルジェリアに、忘れ去られた革命の英雄が帰ってきた。73歳で、亡命者から突如大統領となった彼の目的は一つ、自らがその生みの親の一人である政権党・FLNを解体することだった...</p> <p>モロッコ亡命から27年ぶりに帰国し、大統領となったムハンマド・ブーディヤーフは、その率直さによって大衆的な人気を獲得した。しかし彼は、大統領就任から6ヶ月足らずのうちに、アンナバにおける演説の最中に暗殺される。暗殺をテレビの生放送で目撃した国民は、ブーディヤーフを暗殺したのは、彼を権力の座に据えた軍部であると噂した。</p> <p>当時の閣僚、ジャーナリスト、社会学者、近親者、外交官らへのインタビューを集め、「暗殺された希望」の軌跡をたどる。</p>	<p><b>E.『中国はいまだ遠し』</b> La Chine est encore loin 2009年/アルジェリア=フランス/120分. ドキュメンタリー</p> <p>イスラームの預言者ムハンマドは言った。「知識を求めよ。たとえ中国にあらうとも」。誰もが、真実を知りたいことを望んでいる。しかし、アルジェリアの子供たちにとって、中国はなんと遠いことか。</p> <p>アルジェリア東部の山深い村、ガシーラ。この地で、1954年11月1日、フランス人の小学校教師夫婦が襲撃された。教科書はこれを、栄光のアルジェリア独立戦争の口火を切った軍事作戦と教える。</p> <p>カメラは村に分け入り、人々の暮らしを、小学校での授業風景を撮影する。村人たちは、11月1日の出来事について語り始める。公認史観の神話は解体されてゆき、教えられる歴史と生きられている歴史の落差が、浮き彫りになっていく。</p> <p>「映画による民主化」の実践。</p>